

『青少年のための科学の祭典西大会』ボランティア募集について

【科学の祭典参加依頼の趣旨】

参加エントリーフォーム ⇒



札幌で1993年からスタートした「青少年のための科学の祭典」は、全国
の先駆けとなり。「子供ゆめ基金」を利用して2007年には道内29か所での
実施となり、全国の100の活動の中でも断トツの活動数でした。この時
点で全道の来場者数は約3万人で、実験指導者数は1300人、さらにボラ
ンティアの中高生は500人が参加しました。個々の会場の中で大変ユニークなのは美幌町で、900
人ほどの児童のうち450人が体育館に集まり朝10時から14時の短い時間にくつもの科学体験を
終えるとのこと。そして、科学ブースを実施しているのは子供たちの父母や地域の方々であるとい
うことに驚きます。はじめは科学ブースを囲んで科学実験の手順をメモしていたお母さん方が、次
の年にはブース運営者になっているのです。地域の子供たちに向けて科学工作にかかわることが自
らの創造性を高め、仲間みんなと工夫しながら実施することを楽しく感じて、そして地域の有意義
な活動に発展したのでしょう。このように、地域の子供たちを地域の大人たちが率先して科学的事
象や科学技術について学べる場とすることが地域の理科教育の理想の形であると感じています。多
くの市民の方々のご参加を得て実施したいと考えています。

【ゆめ科学ネットの活動趣旨】

さて、今年度は4月30日に山の手会館にて「子ども科学工作教室 in 山の手」を実施しました。
大人約140名、子ども約180名が来場し楽しんでいただきました。来場した子どもたちは理科が好き
で興味を深くして帰ったと思います。しかし、子どもたちを取り巻く都市生活は自然界から離れ
がちで、虫嫌いの子供も多くなり野山を駆け巡る機会も少なくなりました。教育現場でも理科実験
の体験も多いとは言えず。2007年の大学新入学者を対象とした調査によれば、高校時代には多くの
生徒がほとんど実験を経験していないことが明らかになり、その後、実験授業を多くすることに努
力して現在に至っていますが、多忙な学校現場においては十分な対応になってはいません。この現
状を補うものとして「青少年のための科学の祭典」は、理科の実験、観察等の実体験と理科工作の
機会を効果的に提供する活動であると考えています。我が国が科学技術立国である為には、将来を
担う子どもたちに興味・関心を喚起する科学コミュニケーション活動を広げることが課題であり、
「青少年のための科学の祭典」などの企画は、その最も有効な対策の一つと考えています。趣旨に
賛意をお持ちの方はHPからのエントリーができます。大人には簡単な実験でも子供には新鮮な体
験です。HPの「おもしろ実験」の研修会も企画します。是非ご参加ください。